



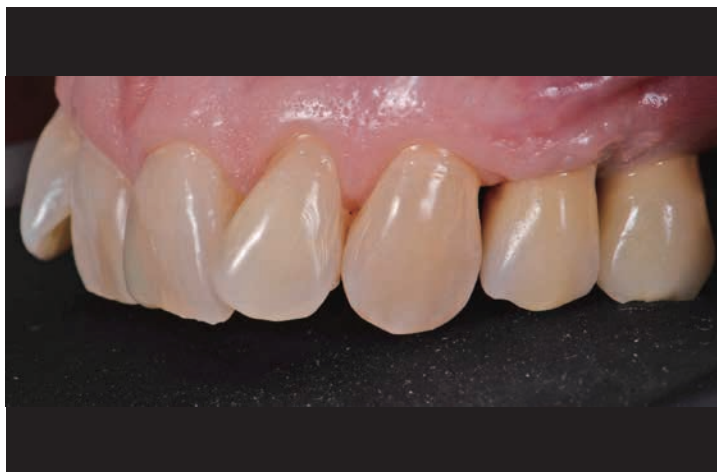
Prof. Dr. Stefan Vandeweghe,  
DDS PhD  
Ghent University  
Ghent, Belgium



Els Dullaert, CDT  
DTB Dullaert  
Dendermonde, Belgium

## アトランティス カスタムベース ソリューションおよび ASAを使用したクラウン一体型アバットメント症例

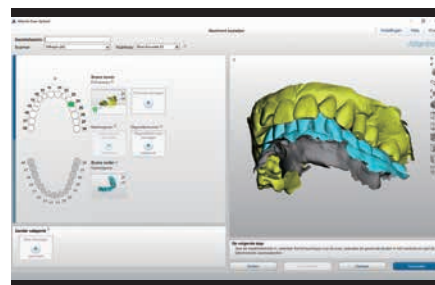
本女性患者は、根破折が原因で左側第一小白歯を喪失したため、OsseoSpeed EV 4.2インプラントを二回法で埋入した。顎骨の位置関係により、インプラントは若干頬側に傾斜した。角度を修正しなければ、スクリューチャンネルはクラウンの頬側に開口してしまい、審美性は損なわれてしまう。これを避けるために、また余剰セメントを歯肉縁下に残さないために、スクリュー固定式のアトランティス カスタムベース ソリューションおよびASAを使用し、デザインを妥協することなく、理想ではない角度に埋入されたインプラントの軸方向を修正することができた。



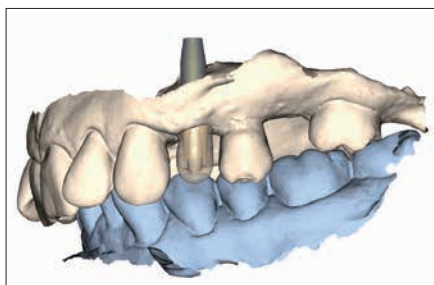
1. インプラント (OsseoSpeed EV 4.2) は24番相当部位に埋入された。インプラントは頬側咬頭に向かって角度がついてしまい、審美的な外観を損なった。



2. 欠損部の頬側面観



3. スキャンしたファイルはアトランティス スキャンアップロードにアップロードされた。



4. 提案されたアトランティス アバットメントおよびジルコニア製アトランティス クラウン カットバックのデザイン。



5. 遠心から見たアバットメント。スクリューチャンネルの方向と、インプラントの垂直軸角度が違っているのが分かる。



6. プリンティングモデルはアバットメントとクラウンと共に、歯科技工所からクリニックに戻る。



7. クラウンのシェードと咬合を確認し、アバットメントにセメント固定する前にクラウンを仕上げる。



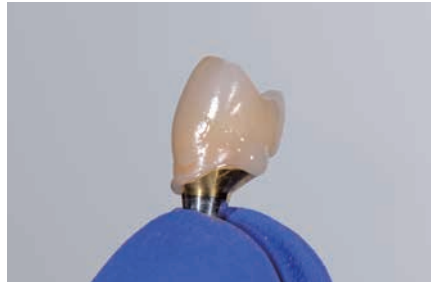
8. アバットメントの口蓋側は、スクリーアクセスチャンネルが、ドライバー側方から挿入出来る角度が付けられている。



9. 先にスクリーをアバットメント取り付け、その後クラウンを口腔外でセメント固定する。セメントがスクリーチャンネル内に流れ込むのを防ぐため、テフロンテープで塞ぐ。



10. アバットメントとクラウンの内側にセメントを塗布する。



11. クラウンとアバットメントを接着後、マージン付近の余剰セメントを除去する。



12. スクリューチャンネル内およびその周囲の余剰なセメントとともに、テフロンテープを取り外す。



13. マイクロブラシを使用して、スクリーチャンネル内の残ったセメントを取り除く。



14. 余剰セメントを除去した後、セメントを光硬化させる。



15. クラウンの頬側の外形を変えることなく、インプラント軸方向とスクリーアクセスチャンネルとの角度差を修正しているのが分かる。



16. 咬合面の中央窩付近に配置されたスクリーアクセスチャンネル。



17. アトランティス カスタムベース ソリューションのセット直後に撮影されたレントゲン写真。安定した骨レベルと適切なエマーゼンスプロファイルが確認できる(25番はすでにインプラントにて修復済み)。



18. 理想的ではないインプラント埋入角度にもかかわらず、ASAを備えたアトランティス カスタムベース ソリューションにより、審美的結果を損なうことなく、スクリー固定修復が可能となった。